

津和野だより

糸 賀 盛 人

先日友人の友達の結婚式へ出席しました。結婚式なのですが、タイトルが「F村で農業を行う決意の報告会」でした。

山口県のF村では昭和46年頃完成した農地開発で、農地はあるが、後継者がいないので、その地へ、住宅8戸を建て、地区内外より、定住農業者を募っており、今4戸の入植者がある様です。

その中の一人、25才の埼玉県生まれの青年の結婚式でした。式・披露宴共、その地の交流施設で、地域の4Hクラブ員に依る運営で、手作り結婚式が行われ、すがすがしい会でした。

宴席でのスピーチでは、「おめでとう」「しっかり頑張れ」の声がありました。その中で、地元集落代表者は「地元としてとてもうれしく思います。この二人に大いに期待しています。」との話がありました。

代表者の方は、自分達の子供は農業を継いでくれないのに、よくぞ他地区から来て、農業を志してくれる、しかも嫁さんまで来てくれて、ほんとにありがとうと言う気持ちだろうと思っています。

青年本人はプロフィールの中で、中学校の頃より農業に目覚め、農業高校・大学へも行き、農業を志し全国を回りF村に出会い、ここで農家になる事を決意した様です。

青年とは何度か話をした事がありますが、農業を志す中身が何か、要は、農業をやってしっかり儲けるのか、自然と共に、自分の生きざまとして農業をやるのか、私には充分理解ができていません。

青年は1年前よりこの地へ入り、露地畑作を中心に頑張って近頃は花栽培も手がけている様ですが、「儲からん」とつぶやいていました。今は、村からの手当てもある様ですが、今後自活して行くには、大変な苦労があると考えられます。

地域の方々は自分の子供ができた様な喜びでしょうが、自分たちができなかった事をいくら知識があり、知恵があり、体力がある方がやろうたって、そうたやすいものではないと思います。土地の取得、家の取得、住んでいる者なら必要な

い事を、本人達はやらねば、農家としての自立はありません。

この若い二人が農業として自立するまで年月はかかると思いますが、村当局、関係機関上げて十分な支援を望むと共に、早く地区民の子供となれる様願っています。

私も農業を始めて30数年過ぎました。私が農業をしているのはここに生まれ、ここに家があり、農地があったからです。

金儲けだけなら、農業でなくても良く、ましてや農業で儲けるなら、全世界には作目の最適地もあるし、安い労働力もあれば、高い消費地（日本かも）あるはずです。

この若い二人も経済の追求ばかりでなく、生きざまとしての農業の気持ちが出れば、F村が第2の故郷となるのではないのでしょうか。

（島根県津和野町・農協理事）